

**【1】 保育所待機児童ゼロを目指して (P12)**

保育定員 1,300 人！大幅拡大へ



**【2】 子どもたちを守るんだ (P14)**

警察官 OB や警備員、地域のチカラが大活躍



**【3】 練馬でずっと住み続けたい (P16)**

介護が必要になっても住み続けられるまちに



**【4】 アニメ発祥の地を体感しよう (P18)**

まちづくりのテーマはアニメの「はじまり」と  
「歴史」



**【5】 ねりまの農をさらにパワーアップ (P20)**

見上げれば青空が 農の学校へようこそ



**【6】 時は今!地下鉄大江戸線、延伸にGO (P22)**

71 万区民の熱い想いを一つにして、延伸促進活動を  
展開します



【 1 】	<h2 style="text-align: center;">保育所待機児童ゼロを目指して</h2> <h3 style="text-align: center;">～保育定員 1,300人！大幅拡大へ～</h3>									
特 色	<p>練馬区長期計画後期実施計画において、平成 22～26 年度の 5 年間の保育所等の整備定員目標数を、当初の約 1,900 人から約 2,700 人に積み増し、受け入れ枠を拡大した。特に、私立認可保育所の設置促進を図るため実施していた内装工事費等開設準備費の補助金額の上限を、平成 26 年度から引き上げるとともに、練馬区が他区に先駆けて独自に実施している開設後 10 年間の長期賃借料補助も引き続き実施する。待機児童が特に多い 0 歳児～2 歳児への対応として、小規模保育事業等の認可外保育施設の整備を行う。</p> <p>「練馬区子ども・子育て支援事業計画」の策定に係る保育ニーズの調査結果を踏まえた保育所等の定員拡充の取り組みを進め、平成 27 年 4 月に向け待機児童ゼロを目指す。</p>									
予算額	<p>2,658,110千円</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">私立認可保育所開設補助等</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,175,430 千円</td> </tr> <tr> <td>認証保育所開設補助等</td> <td style="text-align: right;">171,445 千円</td> </tr> <tr> <td>グループ型家庭的保育事業開設補助等</td> <td style="text-align: right;">86,687 千円</td> </tr> <tr> <td>小規模保育事業開設補助等</td> <td style="text-align: right;">224,548 千円</td> </tr> </table>	私立認可保育所開設補助等	2,175,430 千円	認証保育所開設補助等	171,445 千円	グループ型家庭的保育事業開設補助等	86,687 千円	小規模保育事業開設補助等	224,548 千円	 <p style="font-size: 1.2em; font-weight: bold; margin-top: 10px;">充実</p>
私立認可保育所開設補助等	2,175,430 千円									
認証保育所開設補助等	171,445 千円									
グループ型家庭的保育事業開設補助等	86,687 千円									
小規模保育事業開設補助等	224,548 千円									



石神井・大泉地区子育ての輪



みどりのカーテンのある園庭

<b>事業目的</b>	<p>保育所待機児童の約 9 割は 0～2 歳児であり、保育所定員拡大にあたり、0～2 歳児に相当する定員は、拡大する定員全体の約 4 割となる。</p> <p>加えて、「練馬区子ども・子育て支援事業計画」等の策定に向けたニーズ調査の実施により暫定集計した保育需要を踏まえ、27 年 4 月に向けて 1,300 人規模の定員拡大を図り待機児童ゼロを目指す。</p> <p>平成 26 年度は、都有地を活用して誘致する私立認可保育所 1 園のほか私立認可保育所 12 園について開設に係る経費の補助を行う。また、認証保育所 2 園の開設およびグループ型家庭的保育事業 2 か所の実施、さらに小規模保育事業 5 か所の実施に係る経費の補助を行うことなどにより、平成 27 年 4 月に向けて 1,300 人規模の定員拡大を図る。</p>
-------------	--

<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>区では、保育所待機児童対策を区政の重要課題の一つとして位置づけ、平成22年度から24年度までの3か年を保育所集中整備期間として、認可保育所や認可外保育施設を集中的に整備し、1,800人を超える定員増を図ってきた。さらに、練馬区長期計画後期実施計画（平成24年度～26年度）で、整備定員目標数を当初の約1,900人から約2,700人に引き上げた。</p> <p>しかし、こうした取り組みにもかかわらず、平成25年4月1日現在の待機児童数は、昨年度を55人上回る578人となり、依然として保育所への高い入所需要がある。</p> <p>認可・認可外保育施設の定員の推移</p> <table border="1" data-bbox="416 490 1433 891"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度 (予定)</th> <th>27年度 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定員 (前年度比)</td> <td>9,840人 (373増)</td> <td>10,443人 (603増)</td> <td>11,146人 (703増)</td> <td>11,664人 (518増)</td> <td>12,406人 (742増)</td> <td>1,300人規模増</td> </tr> <tr> <td>  認可</td> <td>8,414人</td> <td>8,818人</td> <td>9,414人</td> <td>9,885人</td> <td>10,506人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  認可外</td> <td>1,426人</td> <td>1,625人</td> <td>1,732人</td> <td>1,779人</td> <td>1,900人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>待機児童数 (前年度比)</td> <td>552人 (123増)</td> <td>564人 (12増)</td> <td>523人 (41減)</td> <td>578人 (55増)</td> <td>300人 (推計)</td> <td>0人 (推計)</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値はすべて各年4月1日現在</p>	年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (予定)	27年度 (目標)	定員 (前年度比)	9,840人 (373増)	10,443人 (603増)	11,146人 (703増)	11,664人 (518増)	12,406人 (742増)	1,300人規模増	認可	8,414人	8,818人	9,414人	9,885人	10,506人		認可外	1,426人	1,625人	1,732人	1,779人	1,900人		待機児童数 (前年度比)	552人 (123増)	564人 (12増)	523人 (41減)	578人 (55増)	300人 (推計)	0人 (推計)
年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 (予定)	27年度 (目標)																														
定員 (前年度比)	9,840人 (373増)	10,443人 (603増)	11,146人 (703増)	11,664人 (518増)	12,406人 (742増)	1,300人規模増																														
認可	8,414人	8,818人	9,414人	9,885人	10,506人																															
認可外	1,426人	1,625人	1,732人	1,779人	1,900人																															
待機児童数 (前年度比)	552人 (123増)	564人 (12増)	523人 (41減)	578人 (55増)	300人 (推計)	0人 (推計)																														
<p><b>事業概要</b></p>	<p>1 私立認可保育所の誘致促進</p> <p>(1)民有地の土地・建物の賃借による整備 民間の保育事業者が認可保育所を開設する際に、内装工事費等を補助することにより、平成27年4月に12園の開設を予定。また、平成22年度以降に開設した20園に対して、開設後10年間にわたる賃借料を補助する。さらに、本体工事費等施設整備費を補助することにより、平成26年度中に私立認可保育所1園を改修する。 (内装工事費等補助金の引き上げ 平成25年度まで上限30,000千円 平成26年度以降上限65,625千円)</p> <p>(2)公有地の貸付による整備 東京都が事業者にも公有地を貸付け、私立認可保育所を誘致する。保育所設置者に対し本体工事費などの施設整備費を補助することにより、平成27年4月に1園の開設を予定。</p> <p>2 小規模保育事業の誘致促進 3歳未満児を中心とした保育需要に対応し、定員19人以下で保育を実施する。開設準備経費補助および開設前家賃補助を行うことにより、平成26年度中に5か所での新規実施を予定。</p> <p>3 認証保育所の誘致促進 設計費・工事費等の開設準備経費の補助を行うことにより、平成26年度中に2園の開設を予定。</p> <p>4 グループ型家庭的保育事業の拡充 内装工事費等開設準備経費を補助することにより、平成26年度中に新たに2か所での新規実施を予定。</p>																																			
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>平成27年4月 合計1,300人規模の定員拡大</p> <p>一部施設は平成27年4月を待たずに順次開設する。</p> <p>私立認可保育所13園の新規開設(内、公有地1園)(定員1,080人程度) 小規模保育事業5か所の新規実施(定員90人程度) 認証保育所2園の新規開設(定員80人程度) グループ型家庭的保育事業2か所の新規実施(定員30人程度) その他、私立認可保育所既存園の定員増など</p>																																			
<p><b>問合せ</b></p>	<p>保育課 ☎ 5984-5839</p>																																			

<p>【 2 】</p>	<h2 style="text-align: center;">子どもたちを守るんだ</h2> <p style="text-align: center;">～ 警察官 OB や警備員、地域のチカラが大活躍～</p>											
<p>特 色</p>	<p>平成 25 年 6 月、区立小学校の児童が、学校の正門の付近で男に刃物で切りつけられた事件を契機に、学校外における子どもたちの安全を確保するため、新規に実施または充実する事業である。警備防犯のプロの力を借りるとともに、区、教育委員会、地域が連携を強化し、子どもたちの安全を守る。教育委員会が独自に警察官 OB を非常勤職員として採用する例は他区にもあるが、防犯に特化した職の設置は 23 区初である。</p> <p>民間警備員については、必要な時に効果的・効率的に配置する方式をとることにより、費用対効果と機動性を高めた。</p> <p>地域防犯防火連携組織は、地域の核となる小学校区域を単位とする組織であり、地域の実情に応じた活動が期待されている。</p>											
<p>予算額</p>	<table border="0"> <tr> <td>19,764 千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校防犯指導員報酬等</td> <td style="text-align: right;">3,731 千円</td> </tr> <tr> <td>学校警備委託料</td> <td style="text-align: right;">15,423 千円</td> </tr> <tr> <td>スクールガード・リーダー謝礼</td> <td style="text-align: right;">160 千円</td> </tr> <tr> <td>地域防犯防火連携組織補助金</td> <td style="text-align: right;">450 千円</td> </tr> </table>	19,764 千円		学校防犯指導員報酬等	3,731 千円	学校警備委託料	15,423 千円	スクールガード・リーダー謝礼	160 千円	地域防犯防火連携組織補助金	450 千円	<div style="text-align: center;">  <p>ねりま 最重要事業</p> </div> <p style="text-align: center;">新規・充実</p>
19,764 千円												
学校防犯指導員報酬等	3,731 千円											
学校警備委託料	15,423 千円											
スクールガード・リーダー謝礼	160 千円											
地域防犯防火連携組織補助金	450 千円											



地域防犯防火連携組織での訓練の様子



<p>事業目的</p>	<p>区民や子どもの安全・安心は、区長部局と教育委員会が相互に連携、協力しながら様々な取組みを進めてきたが、議会や保護者の要望を踏まえ、平成 26 年度はより一層の事業の充実を図るものである。</p> <p>教育委員会では、警察との連携を強化する観点から、警察官 OB を非常勤職員として採用し、防犯施策等に関する助言・指導・支援するなどの業務を担ってもらうとともに、東京都のスクールガード・リーダー事業を活用し、地域ボランティア等に対する防犯講習会に警察官 OB 等の防犯の専門家のスクールガード・リーダーを講師として派遣する取組を新たに始めることとした。</p> <p>また、保護者等から要望されている学校への民間警備員の配置については、26 年 2 月から試行実施する。常駐方式ではなく派遣方式により、必要な時に効果的・効率的に配置する体制を本格的に実施することとした。</p> <p>一方、地域防犯防火連携組織は、小学校の学区域を単位とした地域の防犯防火の核となる連携組織を 26 年度中に新たに 2 組織を設置するとともに、さらなる設置に向け、地域に対する働きかけを強化していく。</p>
-------------	---

<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>切りつけ事件後、区では、地域との連携強化、情報の共有化、および安全教育の充実という視点で対策を進めてきた。</p> <p>地域との連携強化については、校内の見守りを行う学校安全安心ボランティアに対して校外の見守りにも対応できるベストの配布や、事件のあった大泉第一小学校において、地域防犯防火連携組織として「あんしん大一」の立ち上げを行った。この連携組織は、現在区内で12組織が設置されており、25年度中にもう1団体立ち上げる予定である。</p> <p>情報の共有化については、25年9月から教育委員会において、学校、幼稚園や保育所、学童クラブの保護者へ緊急的にメールで情報を一斉に配信するシステムを導入した。</p> <p>安全教育の充実については、実践的な安全教育の指針となるべき「不審者対応の手引き」を25年12月に教育委員会で策定し、児童・生徒の安全教育の徹底を図ってきた。</p> 
<p><b>事業概要</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学校防犯指導員」の設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会事務局内に非常勤の警察官 0B による「学校防犯指導員」を設置し、4月から以下の業務を行う。</li> <li>(1) 教育委員会の行う防犯施策等に関する助言・指導・支援</li> <li>(2) 不審者情報の分析および民間警備員の配置に関する助言・指導・支援</li> <li>(3) 通学路等学校の点検・巡回指導</li> <li>(4) 子どもの安全と防犯に関わる相談業務 等</li> </ul> </li> <li>2 民間警備員の派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>不審者の発生等により重点的な見守りが必要とされる学校について、4月から民間警備員を派遣し、登下校時の見守りおよび周辺の巡回を行い、学校外の安全対策を強化する。</li> <li>* 25年度中の試行実施期間は、不審者情報に基づく配置を行うが、26年4月からの本格実施については、予防的観点からの配置も行う。</li> </ul> </li> <li>3 スクールガード・リーダーの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ボランティア等を対象とした防犯に関する講習会の講師やアドバイザーとして、スクールガード・リーダーの派遣を行う（随時）</li> </ul> </li> <li>4 地域防犯防火連携組織への助成 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域防犯防火連携組織に対し、地域における防犯・防火活動のための各種経費に充てる活動費として年間3万円を助成。26年度中に新たに2組織を設置するとともに、さらなる設置に向け、地域に対する働きかけを強化していく。</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>平成 25 年度中 ・ 2 月 学校警備委託の試行開始  ・ 地域防犯防火連携組織 2 組織設置（合計 13 組織）</p> <p>平成 26 年度中 ・ 4 月 「学校防犯指導員」配置  ・ 地域防犯防火連携組織 2 組織設置（合計 15 組織）</p>
<p><b>問合せ</b></p>	<p>教育総務課 ☎ 5984 - 5594（「学校防犯指導員」の設置 他）  安全・安心担当課 ☎ 5984 - 1241（地域防犯防火連携組織への助成）</p>

【3】	<h2 style="text-align: center;">練馬でずっと住み続けたい</h2> <h3 style="text-align: center;">～介護が必要になっても住み続けられるまちに～</h3>	
特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>■区内には特別養護老人ホームが25施設（1724床）あり、23区内では最も施設数が多い。介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりのため、今後もさらに整備を促進していく。</li> <li>■平成26年度は、特別養護老人ホーム2施設（100床）や介護老人保健施設2施設（156床）、都市型軽費老人ホーム5施設（90床）、認知症の方のためのグループホームなど地域密着型サービス拠点7か所への補助など、多様な介護保険施設やサービスを充実する。</li> <li>■高齢者へのきめ細やかな相談に対応する高齢者相談センター（地域包括支援センター）について、26年度に新たに整備する介護予防機能を持つ敬老館内に支所を1か所増設する。</li> </ul>	
予算額	<p>821,889千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設整備助成費 728,300千円</li> <li>◆高齢者相談センター支所増設経費 13,832千円</li> <li>◆敬老館新設経費 79,757千円</li> </ul>	 <p style="font-size: 1.2em; margin-top: 10px;">充実</p>



事業目的	<p>要介護状態になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等を整備する民間事業者に対し、経費の一部を補助することにより、高齢者福祉施設の整備を促す。</p> <p>増え続ける介護サービス等の需要に応えるため、高齢者の総合的な生活支援を行う高齢者相談センターの整備を進める。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">平成25年6月に区有地の活用により開設した特別養護老人ホーム</p>
------	--

<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>練馬区高齢者基礎調査（平成 23 年 3 月）によると、多くの高齢者は、要介護状態になっても、生涯にわたり住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいという意向を持っている。そこで、区では、在宅での介護が困難で早期の施設入所が必要な方に対応する、特別養護老人ホームの整備を進めており、区独自施策として、整備事業者に対して、1 床につき 210 万円の補助を実施しているほか、区有地を活用した整備を進めてきた。</p> <p>一方、高齢化の進行に伴い、将来への不安から特別養護老人ホームの入所申込をする方が多く、区内の特別養護老人ホーム入所待機者は平成 25 年 9 月末現在で 2,777 人という状況である。</p> <p>これに対応するため、介護老人保健施設のほか、24 時間対応の訪問介護看護サービスや認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス拠点、都市型軽費老人ホームといった多様な施設・サービスの整備を促進し、在宅で安心して介護が受けられる地域づくりに向けた基盤整備に取り組んでいる。</p> <p>このほか、区の学校給食第二総合調理場跡地を活用した特別養護老人ホーム（80 床予定）の整備にも、平成 29 年度の開設を目指して取り組む。</p> <p>また、地域で高齢者の総合的な生活支援を行う高齢者相談センター（地域包括支援センター）は、現在、本所 4 か所、支所 24 か所に対応している。高齢者の生活全般に関わる相談体制を充実させるため、高齢者相談センター支所について、26 年度に 1 か所増設し、25 か所にする。</p>															
<p><b>事業概要</b></p>	<p>1 高齢者福祉施設等の整備促進</p> <p>(1) 特別養護老人ホーム 平成 26 年度は 2 施設 100 床に補助予定。平成 25 年度補助分 1 施設を含め平成 27 年 8 月までに 3 施設 190 床開設予定。</p> <p>(2) 介護老人保健施設 平成 26 年度は 2 施設 156 床に補助予定。平成 27 年 12 月までに開設予定。</p> <p>(3) 地域密着型サービス拠点（グループホーム等） 平成 26 年度は 7 事業所に補助予定。うち 6 事業所が平成 27 年 5 月までに開設予定。</p> <p>(4) 都市型軽費老人ホーム 平成 26 年度は 5 施設 90 床に補助予定。うち 3 施設 50 床が平成 27 年 3 月までに開設予定。</p> <p>2 相談支援体制の強化（高齢者相談センター支所の新規開設） （仮称）石神井高齢者相談センター上石神井支所（上石神井 1-6-16） 上石神井出張所内に設置する。</p>															
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>1 高齢者福祉施設等の整備</p> <table border="1" data-bbox="411 1742 1422 1944"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 26 年度中開設予定</th> <th>平成 27 年度中開設予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>2 施設（140 床）</td> <td>1 施設（50 床）</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td>—</td> <td>2 施設（156 床）</td> </tr> <tr> <td>地域密着型サービス拠点</td> <td>4 事業所</td> <td>2 事業所</td> </tr> <tr> <td>都市型軽費老人ホーム</td> <td>3 施設（50 床）</td> <td>1 施設（20 床）</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 相談支援体制の強化 平成 26 年 10 月開設（仮称）石神井高齢者相談センター上石神井支所</p>		平成 26 年度中開設予定	平成 27 年度中開設予定	特別養護老人ホーム	2 施設（140 床）	1 施設（50 床）	介護老人保健施設	—	2 施設（156 床）	地域密着型サービス拠点	4 事業所	2 事業所	都市型軽費老人ホーム	3 施設（50 床）	1 施設（20 床）
	平成 26 年度中開設予定	平成 27 年度中開設予定														
特別養護老人ホーム	2 施設（140 床）	1 施設（50 床）														
介護老人保健施設	—	2 施設（156 床）														
地域密着型サービス拠点	4 事業所	2 事業所														
都市型軽費老人ホーム	3 施設（50 床）	1 施設（20 床）														
<p><b>問合せ</b></p>	<p>高齢社会対策課 ☎ 5984-4583</p>															

<p>【 4 】</p>	<h2 style="text-align: center;">アニメ発祥の地を体感しよう</h2> <p style="text-align: center;">～まちづくりのテーマはアニメの「はじまり」と「歴史」～</p>	
<p>特 色</p>	<p>ジャパンアニメーション発祥の地である大泉地区のアニメに関わる歴史や資源を活かし、大泉学園駅周辺地域において、アニメデザインを取り入れたまちづくりを進める。駅北口地区の再開発事業により整備するペDESTリアンデッキに、最初の取組みとしてアニメの「はじまり」と「歴史」をテーマにした空間を創出する。</p> <p>練馬区、大泉の地で生まれた複数の人気アニメキャラクターのモニュメント等を設置する。</p> <p>アニメ発祥の地とアニメの歴史を体感できるような空間をモニュメントやデジタルサイネージ等によって創出する。</p> <p>特定の作者のキャラクターを設置した事例は数多くあるが、多様な作者のキャラクターを同一の空間に整備することは珍しい。</p>	
<p>予算額</p>	<p>97,470千円 ペDESTリアンデッキアニメモニュメント等設置等 業務委託</p>	<div style="text-align: center;">  <p>ねりま 最重要事業</p> <p>充実</p> </div>



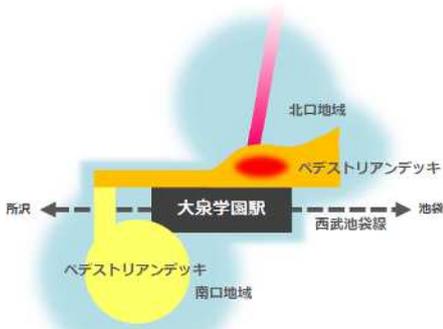
再開発ビル・ペDESTリアンデッキ完成イメージ

<p>事業目的</p>	<p>ジャパンアニメーション発祥の地を体感できる空間を創出し、アニメのまちの玄関口を整備する。</p> <p>アニメを活かしたまちづくりにより、まちの活性化、にぎわいの創出や商店街振興を図る。</p> <div style="text-align: center;"> <p>モニュメントイメージ</p>   </div> <p style="text-align: center;">練馬区ゆかりのキャラクター</p>	
-------------	---	--

<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>大泉学園駅北口地区の商店街では、地域のにぎわいづくりや商店街振興のために、大泉在住のマンガ家・松本零士氏の協力を得て、松本氏の作品をモチーフにした街路灯やフラッグを商店街に設置しているほか、独自のアニメキャラクターを制作するなど、アニメを活用しながらジャパンアニメーション発祥の地に相応しい商店街づくりに取り組んでいる。</p> <p>また、大泉地区をジャパンアニメーション発祥の地として区内外にPRするため、地域の商店街や区、鉄道・アニメ事業者等が一体となり、平成14年からアニメイベントの開催や、大泉学園駅で銀河鉄道 999 のキャラクターの活用などを行い、アニメのまちならではの地域おこしを行っている。</p> <p>一方、大泉学園駅北口では、平成16年から市街地再開発事業によるまちづくりの検討が進められ、平成23年に大泉学園駅北口地区地区計画と併せて市街地再開発事業が都市計画決定され、平成25年から工事に着手し、平成27年3月に完了する予定となっている。</p> <p>再開発事業概要 東京都練馬区東大泉一丁目地内  再開発ビルの整備： 地上27階、地下2階 住宅・商業施設・公益施設等  公共施設の整備：道路の拡幅・駅前広場・ペDESTリアンデッキの整備等</p>
<p><b>事業概要</b></p>	<p>ジャパンアニメーション発祥の地である練馬区において、大泉地区はまさにその源流となる土地である。数々のアニメの名作が生まれるとともに、多様な世代を代表するアニメキャラクターが誕生し、日本そして世界の人々に親しまれてきた。このような地域の特徴を活かし、アニメ発祥の地に相応しい街並みを整備するため、大泉学園駅を中心にアニメデザインを積極的に取り入れたまちづくりを展開していく。</p> <p>現在、駅北口地区の再開発事業が進められ、区民からの要望が多かった駅直近のバス乗り場や駅前広場そしてペDESTリアンデッキを一体で整備する。</p> <p>これを契機に、駅北口をアニメのまちの玄関口として、ペDESTリアンデッキにアニメキャラクターや大泉地区とアニメづくりの足跡を紹介するモニュメント等を設置し、アニメを感じ、アニメに触れることができる空間を整備する。</p> <p>今後、さらに、まちづくりや施設等の改修整備等にあわせ、駅や駅南口、また、駅から東映アニメーションギャラリーまでの地域においても、地域住民や企業等との協議を進め、アニメデザインを活用したまちづくりを広げていく。</p>
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>平成26年4月～9月 アニメモニュメント等の実施設計  平成26年10月～平成27年3月 アニメモニュメント等の制作・設置  (現在工事中)～平成27年3月 ペDESTリアンデッキの整備</p>
<p><b>問合せ</b></p>	<p>商工観光課 ☎ 5984 - 4564 (アニメのモニュメント等の整備)  西部地域まちづくり課 ☎ 5984 - 1592 (再開発・ペDESTリアンデッキ整備)</p>



アニメイベントの彩色体験



アニメデザイン活用予定地域

【5】	<h2 style="text-align: center;">ねりまの農をさらにパワーアップ</h2> <h3 style="text-align: center;">～見上げれば青空が 農の学校へようこそ～</h3>	
特色	<p>■ 農業者の高齢化による労働力の低下や後継者不足など都市農業・農地を取り巻く環境は厳しさを増している。区では区民全体で農業を支え、農地を保全する仕組みとして、仮称練馬区農の学校を開校する。農の学校では、複数の講座を設け、農業者の支え手となる農サポーターを育成するとともに、講座の修了生が活躍する場（区内農家の畑）も農の学校がコーディネートする。段階を踏んだボランティア育成や講座修了後に農業者等とのコーディネートを行う事業は都内でもめずらしい事業である。</p> <p>■ 練馬区では都内生産量第1位のキャベツからブルーベリー観光農園まで多様な農業が営まれている。この練馬農業をさらに元気にするため、地場農産物に対する育成支援や営農環境の整備に対する補助事業を実施し農業振興を図る。</p>	
予算額	<p>83,486千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 仮称練馬区農の学校推進経費 26,033千円</li> <li>◆ 都市型農業経営支援事業補助等 50,557千円</li> <li>◆ 都市農地保全調査委託 6,897千円</li> </ul>	 <p>ねりま 最重点事業</p> <p>充実</p>



練馬の農の風景



農の学校講座イメージ

事業目的	<p>練馬大根というブランド野菜を有する練馬区にとって、農は練馬区の特徴の一つであることから、農地の保全や農業の振興に積極的に取り組んでいる。また、区民の農とふれあいたいといったニーズが高まる一方で、農業者や農地は減少し続けている。こうした中で、農に関心のある区民を対象に、ふれあい・初級・中級Ⅰの3つの講座を持ち、農業のスキルを段階を追って習得できる仮称練馬区農の学校を設置し、農業者を支えていくための人づくりを行う。</p> <p>さらに、平成23年に策定した「練馬区農業振興計画」に基づく農業振興事業を複合的に実施し、区内農業者が多様な魅力ある都市農業を展開し、農業を続けていくための支援を行う。</p> <p>また、農の風景育成地区制度の活用により、減少しつつある農地を保全し、農のある風景を将来に引き継ぐ。</p>
------	--



<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>1 農の人材育成          練馬区では、農家の農作業をお手伝いする「農作業ヘルパー・援農ボランティア養成事業」を平成 18 年度から本格的に実施しており、平成 25 年 12 月末現在、援農ボランティア等に登録している区民は延 68 名を数える。仮称練馬区農の学校は、これを引き継ぎ、発展させた事業である。平成 23 年 2 月に策定した「練馬区農業振興計画」に基づき検討を進め、平成 25 年 3 月仮称練馬区農の学校実施計画を策定した。</p> <p>2 都市型農業の振興</p> <table border="1" data-bbox="448 450 1431 703"> <thead> <tr> <th></th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>24 年度</th> <th>25 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者等の認定者数</td> <td>—</td> <td>21 経営体</td> <td>32 経営体</td> <td>12 経営体</td> </tr> <tr> <td>地産地消推進農業施設の整備支援</td> <td>10 棟</td> <td>5 棟</td> <td>6 棟</td> <td>12 棟</td> </tr> <tr> <td>生産緑地保全に伴う基盤整備支援</td> <td>9 か所</td> <td>10 か所</td> <td>9 か所</td> <td>9 か所</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 農の風景育成地区          農地を含む貴重な風景の保全を図るために農地や屋敷林など比較的まとまっている地域について、地域のまちづくりとも連携しながら農のある風景を保全、育成していく制度である（都制度）。平成 26 年度の地区指定に向け、農地所有者の意向調査等について検討している。</p>		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	認定農業者等の認定者数	—	21 経営体	32 経営体	12 経営体	地産地消推進農業施設の整備支援	10 棟	5 棟	6 棟	12 棟	生産緑地保全に伴う基盤整備支援	9 か所	10 か所	9 か所	9 か所
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度																	
認定農業者等の認定者数	—	21 経営体	32 経営体	12 経営体																	
地産地消推進農業施設の整備支援	10 棟	5 棟	6 棟	12 棟																	
生産緑地保全に伴う基盤整備支援	9 か所	10 か所	9 か所	9 か所																	
<p><b>事業概要</b></p>	<p>1 仮称練馬区農の学校推進          仮称練馬区農の学校の中核拠点を整備する。中核拠点は、区立高松市民農園（3,696 m<sup>2</sup>）を活用し、農作業を学ぶ圃場を整備しつつ、農に関心を持つ区民の中から農業者の支え手となる人材を育成する。加えて中核拠点では、育成した区民が農サポーターとして活躍できるよう、農業者や農サポーターの情報を相互に提供しながら、コーディネートも行う。  <b>【施設の概要】</b> 講習施設、圃場（約 300 m<sup>2</sup>×3 か所）、ビニールハウス（300 m<sup>2</sup>）、洗い場、個人用ロッカー等</p> <p>2 都市型農業の振興          (1) 認定農業者及び都市型認定農業者を対象に、トラクターや野菜無人販売機など農業経営の近代化および省力化につながる機械、設備の購入、整備に対し補助する。          (2) 地場農産物の安定供給や有機・減農薬農業による安心安全な農産物の生産基盤強化のため、IPM ハウスの整備や資材、肥料等の購入に対し補助する。          (3) 住宅に囲まれている都市環境の中で、調和のとれた農業が確立できるよう土留やフェンス、農業用井戸の整備等に対し補助する。</p> <p>3 農の風景の保全（農の風景育成地区制度の活用）          農の風景育成地区指定を受けるための申請を行い、都市計画公園など都市計画制度を積極的に活用した農地の保全を図る。</p>																				
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>仮称練馬区農の学校          平成 26 年 7 月 整備工事          平成 26 年 12 月 竣工・受講生募集          平成 27 年 3 月 仮称 練馬区農の学校開校          ※農の風景育成地区の指定は平成 26 年度中を予定</p>																				
<p><b>問合せ</b></p>	<p>都市農業課 ☎ 5984-1384(仮称練馬区農の学校、都市型農業)          みどり推進課 ☎ 5984-2430(農の風景の保全)</p>																				

<p><b>【 6 】</b></p>	<p><b>時は今！地下鉄大江戸線、延伸にGO</b>  ~71万区民の熱い思いを一つにして、延伸促進活動を展開します~</p>													
<p><b>特色</b></p>	<p>区は、区北西部の鉄道空白地域を改善するため、都営地下鉄大江戸線の大泉学園町への延伸の早期実現を区政の最重要課題として位置づけ、延伸促進活動等に取り組んでいる。運輸政策審議会答申の目標年次である平成27年が近づいていること等を踏まえ、延伸の実現の機運をさらに盛り上げるために、延伸促進活動を充実発展させ、初めて延伸地域にとどまらない区内各所で様々な延伸促進活動を展開する。71万区民の大きな後押しにより、事業者である東京都に強く要請し、大江戸線の早期延伸を実現する。</p> <div data-bbox="1161 293 1445 689" style="float: right;"> <p>大江戸線の早期延伸に向けて</p> <p>★練馬区</p> <p>大江戸線延伸パンフレット</p> </div>													
<p><b>予算額</b></p>	<table border="0"> <tr> <td>523,015千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大江戸線延伸推進経費</td> <td>11,662千円</td> </tr> <tr> <td>大江戸線延伸推進基金積立金</td> <td>200,694千円</td> </tr> <tr> <td>土支田中央区画整理事業費</td> <td>71,035千円</td> </tr> <tr> <td>地区計画推進経費他</td> <td>231,694千円</td> </tr> <tr> <td>地域まちづくり推進経費</td> <td>7,930千円</td> </tr> </table>	523,015千円		大江戸線延伸推進経費	11,662千円	大江戸線延伸推進基金積立金	200,694千円	土支田中央区画整理事業費	71,035千円	地区計画推進経費他	231,694千円	地域まちづくり推進経費	7,930千円	<div style="text-align: center;"> <p><b>ねりま 最重要事業</b></p> <p><b>充実</b></p> </div>
523,015千円														
大江戸線延伸推進経費	11,662千円													
大江戸線延伸推進基金積立金	200,694千円													
土支田中央区画整理事業費	71,035千円													
地区計画推進経費他	231,694千円													
地域まちづくり推進経費	7,930千円													



大江戸線延伸地域図



延伸により鉄道利便性が向上する地域

<p><b>事業目的</b></p>	<p>平成12年1月、運輸大臣(現国土交通大臣)の諮問機関である運輸政策審議会(現交通政策審議会)答申第18号は、都営地下鉄大江戸線の光が丘から大泉学園町への延伸を「平成27年までに整備着手することが適当である路線」として位置付けている。当時、導入空間である都市計画道路補助230号線の整備に時間を要すると見込まれ、速やかな整備着手が困難であるとされた。現在、補助230号線は、大江戸線の延伸区間である大泉学園通りまでの全区間が事業化され、笹目通りから土支田通りまでの1.1kmの区間では、すでに交通開放されるまでに至り、駅広用地もすでに確保したことから、答申時における課題は着実かつ確実に解決する目途がたっている。</p> <p>答申の目標年次が迫り、大江戸線の導入空間の整備が進む中、延伸の早期実現に向けて、さらに機運を高める延伸促進活動を展開するとともに、大江戸線延伸推進基金を積み増し、区の強い姿勢を関係機関に示していく。</p> <div data-bbox="1066 1809 1430 2078" style="float: right;"> </div>
--------------------	--

補助230号線(交通開放区間)

<p><b>これまでの取り組みおよび現状</b></p>	<p>区は、都営地下鉄大江戸線延伸の早期実現のため、区民・区議会と一体となって「大江戸線延伸促進期成同盟(会長 志村豊志郎区長)」を設立し、25 年間、延伸促進活動に取り組んでいる。</p> <p>区は、地下鉄の導入空間となる補助 230 号線の整備促進に資する、土支田中央土地区画整理事業や地区計画など、延伸地域にふさわしいまちづくりにも取り組んでいる。また、大江戸線延伸推進基金を設立(平成 23 年 4 月施行)し、毎年継続的に積立てを行っている(平成 25 年度現在 約 9 億円)。</p> <p>さらに、昨年、大江戸線延伸促進大会を開催し、区民等の力を結集して、国や東京都に対して、延伸の早期実現を要請していく旨の決議を行い、要望書を提出した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>大江戸線延伸促進大会の会場の様子。 会場一杯の区民が集まる中、開催された。 (平成 25 年 11 月)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>東京都前田副知事へ要望書 を手渡す志村区長 (平成 25 年 12 月)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>太田国土交通大臣へ要望書 を手渡す志村区長 (平成 25 年 12 月)</p> </div> </div>
<p><b>事業概要</b></p>	<p>1 区内全域におよぶ延伸促進活動</p> <p>(1)大江戸線延伸事業の積極的な発信 本庁舎アトリウムに大江戸線を身近に感じる展示を行いながら、これまでの延伸促進活動や延伸地域の魅力を積極的に発信していく。</p> <p>(2)出張啓発活動 延伸地域にとどまらず、練馬まつり等の多くの方が来場する場所に出張して延伸地域のまちの魅力を紹介するとともに、大江戸線延伸のPRを行う。また、大江戸線の大泉学園町への延伸の早期実現に向けた署名活動を行う。</p> <p>(3)区立施設における啓発 のぼり旗を作成(平成 24 年に実施したポスターコンクールの作品を活用)し、区内各施設に配付し、延伸促進の機運を高める。</p> <p>(4)記念品の作成 本庁舎アトリウムにおける展示会や練馬まつり等の来場者に配布する記念品を作成する。</p> <p>2 延伸促進立看板の増設 新駅が予定されている三箇所の交通広場予定地に、延伸促進立看板を設置する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示ブース(イメージ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ポスターコンクール最優秀作品</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>記念品(イメージ)</p> </div>
<p><b>スケジュール</b></p>	<p>平成 25 年度 大江戸線延伸促進大会開催(11 月) 東京都への要請活動(12 月) 国土交通省への要請活動(12 月)</p> <p>平成 26 年度 啓発活動等の拡充 関係機関への要請活動</p>
<p><b>問合せ</b></p>	<p>大江戸線延伸推進課 ☎ 5984 - 1582</p>